

ハンディースキャナー大研究

これまでも何度か紹介してきたHAL研究所の『ハンディースキャナーMSX2』だけど、もう一度その機能をおさらいしてみようと思う。イラストや写真を手軽に取り込めるこのツールは、MSXの用途を一層ひろげてくれるのだ。

簡易型DTPを目指せ

ソニーから発売されたビデオデジタイザーや、このHAL研究所のハンディースキャナーMSX2の登場で、MSXにおける画像加工の分野は一躍脚光をあびたといっている。これまでに、ビデオ画像や写真などのデジタイズ機能を持っていたのは、ごく限られた一部のマシンだけ。カートリッジスロットによる拡張性がウリのMSXとしては、いささか不本意な状況が続いていたというわけだ。それがスロットに接続して使用するスキャナーなどの登場で、すべてのMSXユーザーが自由に画像加工を楽しめるようになったんだね。

それでは、このスキャナーをどう活用したらいいんだろう。オーソドックスな使い方としては、雑



▲アレスタ2のパイロット、エリノアを取り込んでみた。なかなかカッコイイね。



▲付属のグラフィックエディタで着色すると、ご覧のとおり。アニメみたいだね。

誌などに載っているイラストを取り込んで、自分だけのグラフィックライブラリーを作ること。付属のグラフィックエディタを使えば、SCREEN 5～8までの画像を取り込めちゃうのだ。“ハンディー”スキャナーというだけに、実際に取り込める範囲も名刺大くらいと小さいけど、複写機でイラストを縮小してから取り込めば問題ないね。またグラフィックエディタには、カラープリンタにも対応した、画面のハードコピープログラムも用意されている。

でも、せっかくのスキャナーなんだから、もっと実用的なことに



▲カートリッジにスキャナー、ACアダプターやディスクで、価格2万4800円[税別]。

も使えないだろうか。そこで注目したいのが、HALNOTEのワープロソフトなどと組み合わせた、DTP(デスクトップパブリッシング)的な使用法。HALNOTEはもともと文字装飾なども豊富で、画面に表示されたイメージどおりに文書を印刷できるという特徴を持っている。これだけでも、DTPに近い使い方ができたわけだね。

それがさらに、スキャナーで取り込んだ写真やイラストを文書中に添付できるようになるのだから、楽しそうだぞ。身の回りに起こった出来事などを写真入りで紹介した家庭新聞(?)も作れそうだね。



▲猫の写真を取り込んだところ。これを加工してワープロに添付することも可能。



▲さりげなくスキャナーの宣伝をしたりして。モデルはHAL研究所の高橋くん。

COBAUSE (コボウス) もヨロシクね!

HALNOTEやスキャナー付属のグラフィックエディタを操作するのは、マウスだけじゃない。日本の住宅事情を考えれば、トラックボールがベストなのだ。

狭い場所でこそ使おう

これはMマガ編集部だけの話かもしれないけど(きつとそうじゃないと確信もしてるけど)、机の上というのは、本や資料やキーボードやコーヒーカップやゴミなどで、あふれかえっているもの。そんな状況下でマウスを使おうというのは、いかに無謀な試みであるかはわかってもら

えるよね。人によっては膝の上に雑誌や下敷を置いて、その上でマウスを転がしてみたりもするけど、操作性がいいとはお世辞にもいえない。そこで注目したいのが、トラックボールの存在なのだ。

上の写真のCOBAUSE(コボウス)というのは、HAL研究所がMSX用に開発したトラックボール。オレンジと赤のふたつのボタンがあり、



マウス対応のソフトはすべて使用できるというわけだ。机の上が狭くて、マウスを移動させるスペースがないなんて人は、ぜひ使ってみてほしいな。コボウスを手の平に乗せて、中央のボールをコロコロとまわすだけの操作だから、とっても簡単。マシンとの接続も、ジョイスティックポートにつなげるだけなのだ。価格1万4800円[税別]で発売中だよ。